

牛井

校長 山川 毅

私と牛井との出会いは中学3年生の時、きっかけは親子喧嘩でした。正月、我が家の食卓には、連日お節料理の残りが続き、私は、母親に文句を言ったのです。母親は「文句言うなら食べなくていい!」とびしゃり……。私も引くに引けず、夕食をボイコットしたのでした。夜の9時過ぎ、意地を張ってもお腹は空くもの。特に中学3年生は食べ盛り。その時、頭に浮かんだのは何となくテレビのCMで耳にしていた吉〇家。今でこそ牛井チェーンはたくさんありますが、私が中学生の時は吉〇屋のみでした。24時間営業、メニューは牛井のみ。“どんな店なんだろう……”とても刺激的な存在でした。“よし。吉〇家に行くしかない!”一念発起した私は、自転車で30分自宅から2駅離れた店へ向かい、吉〇屋の牛井を初めて口にしました。夜中に家を飛び出した緊張感と深夜の外食ということで、正直味はあまり覚えていません。

ここからは、6月23日の朝礼で生徒に話した内容です。

“牛井1杯作るのに、どれくらいの水を使うと思いますか?まず、牛井の材料を挙げてみましょう。ごはん、牛肉、玉ねぎ、紅ショウガ……。米を作るには当然水が必要です。ちなみに1キロの米をつくるには4トンちかい水が必要だそうです。そして牛肉。牛を育てるにはもちろん水を与えます。そして餌となる大量の穀物。穀物を育てるには大量の水が必要です。そして、玉ねぎ、ショウガを育てるためにも当然水が必要です。そんなこんなで計算すると、牛井1杯作るのに必要な水は2000リットル=2トンの水=500m1のペットボトル4000本が必要だそうです。大げさに言いかえれば、牛井1杯を2トンもの水が陰ながら支えているのです。

本題に入ります。先生がみなさんに伝えたいのは「感謝の気持ち」です。誤解しないでください。牛井1杯食べるとき、「ああこの1杯のためにたくさんの水が使われているんだな。感謝して食べよう」と言っているのではありません。みなさんの中学校生活。当たり前のように日々過ぎていますが、どうでしょうか?目に見えない、気付かないものに支えられて成り立っていませんか?ご家族がきちんと中学校生活を送れるように生活を整えてくださり、学校へ来れば、先生方が授業を行ってくれる。休み時間は友達と楽しいひと時を過ごせる。放課後は自分が好きな部活動ができる。感謝の存在として家族、先生方、友達は比較的気付きやすいと思いますが、それ以外にも地域の方々や学校の事務員さん、用務員さん、給食の配膳員さん、PTAの方々が間接的に支えてくださっています。

では、その感謝の気持ちをどうやって表しましょうか?簡単です。勉強とかスポーツとか、習い事とか中学生の自分が打ち込めることを一生懸命頑張ってくれたらいいのです。そして中学生時代にたくさんのことを吸収して、数年後に立派な大人、社会人になってくれれば素敵なことなのです。

朝、登校すると鑑水ガーデンの素敵な花々が迎えてくれる鑑水中学校。学校に来て、勉強したり、友達と楽しい生活を送ることができるのは、それこそ水のように空気のようにみなさんの成長を願ってさりげなく支えてくださっている方がいることを心の片隅に置いて欲しいと思います。“

運動が得意な人は、「運動神経が良い」、俊敏な動きができる人は「反射神経が良い」と言われます。この両者は、もって生まれた能力であり、努力ではそう高められるものではありません。しかし、「感謝神経（感謝の気持ちがもてる人）」は、意識すれば伸ばせます。同時に、これが未発達だと、“やってもらって当たり前!”という人間になってしまいます。感謝の心をもって生活していると、不平不満が少なくなり、心穏やかに過ごせるという相乗効果もあります。時として、周りの大人があえて要求して、この「感謝神経」を育てたいものです。



認定 NPO 法人カタリバ ルールメイキング講演会
「対話でどう乗り越える？深い話し合いをしよう ワークショップ」

「対話」する力の育成

6月7日（土）、
認定 NPO 法人カタリバより、浜田
美貴様を講師に招
いて「対話でどう



乗り越える？深い話し合いをしようワークショップ」を行いました。深い話し合いをするために質問力を高めることが大切であることをワークショップを通して学びました。参加した生徒は「深い話し合いをするために、必要なことが分かってとてもためになった。」「自分の共感を%で考えてみようと思った。」等、感想を話していました。

【講演会で紹介された「対話」を深める言葉】

- ・理由を伝えたり、きいたりする：「～だから」、「どうして？」、「なぜ？」
- ・一番大切なことを探す：「そもそも～？」
- ・仮説をたててみる：「もし～だったらどうなる？」
- ・反対を考えてみる：「逆に～だったらどうかな？」
- ・具体例や経験から考えてみる：「具体的にいうと？」、「どんなときにそれを感じる？」

地域学校協働本部 主催 鑑水★家プロジェクト

地域学校協働本部を発足・鑑水の子どものためのキャリアディベロップメント



6月7日（土）鑑水中学校は地域学校協働本部を発足させました。地域学校協働本部とは、鑑水中学校が地域の実情を踏まえた特色ある学校となるように支援し、地域と学校が一体となって子ども達の健やかな育成を図り、地域の核となる学校づくりを進めることを目的にしています。

発足して第1弾のイベント「鑑水★家プロジェクト」が始まりました。株式会社名尾建のみなさんの全面協力で、鑑水の地にみんなが住みたい夢の家を建てます。第1回はプロジェクトの説明と、家を建てる時に使う重機の体験を行いました。30名を超える子どもと大人が参加しました。鑑水中学校の花壇の枯れた木を重機で抜いて、重機のパワーを感じることができました。参加した児童生徒は「重機の力はすごい」「職人の方たちが優しくて、格好良かった」等口々に話していました。第2回は7月26日（土）の予定です。

右
重機で中庭の花壇の枯れた木を
抜く名尾建のかっこよい職人の方



鑑水中学校は「対話de指導」



「鑑水★家プロジェクト」のインスタグラムです。ぜひ御覧ください。



プレ中学生プロジェクト

小中一体化の取組



6月5日（木）に、由木西小学校と鑓水小学校の6年生を招待して、プレ中学生プロジェクト（小6の中学校一日体験）を実施しました。授業見学、中学校教員による授業、昼休み体験、中1と道徳科の授業、部活動等、ほぼ一日の体験でした。6年生は、より現実的な中学校生活を体験することができたのではないのでしょうか。加えて今年度は6年生に鑓水中学校が取り組んでいる「非認知能力の育成」にも取り組んでももらいました。「非認知能力」を意識して残りの小学校生活もより充実したものとしてもらいたいです。それでは小学校6年生の感想を紹介します。

- ・印象に残ったことは2つあって、1つ目は体験授業の美術です。美術ではデッサンの時の鉛筆の持ち方や色の明暗の着け方等を教わりました。2つ目は中1と行った道徳の授業です。中1年生と考えを深めるのが楽しかったです。今日の経験をこれからも生かしていきたいです。
- ・きちんと勉強や部活などに取り組む中学生がかっこよかった。私もそのような中学生になりたいと思った。
- ・道徳の授業で、中1の人たちが自分よりも印象に残る、分かりやすい意見を言っていて、やっぱり中1の人たちはとってもすごいなあと思えた。それと同時に、自分たちも負けていけないと思った。中1の人たちとの非認知能力等の様々な差を1年間で縮めようと思った。これを1年間の目標にして頑張りたい。

定期考査後基礎基本定着教室

学力向上の取組



定期考査後の「解きなおし」の基礎基本定着教室を実施しました。定期考査の問題を再度解いて、分からない点を教わることができます。参加した生徒は「自分ではもう一度解くことはなかなかしないから良い機会だった」等、話していました。

やりみず会主催「逃走中 2025」

小中一体化の取組・やりみず会と協働



やりみず会主催の「やりみず逃走中 2025」ですが、熱中症対策のため中止（延期）となりました。ゲームマスター役の田口教諭とハンター1体（副校長）が6月17日（火）に鑓水小学校を訪れ、中止の放送をしてきました。約10体のハンター（教員）が鑓水中学校から放出（ハンターとして参加する）される予定だったので残念でした。